

はじめに

この本を手にとってください。ありがとうございます。心から感謝します。

もしかしたら、まだ買うのを迷っているかもしれません。あなたが手にしているこのマネジメントの本は、二年の月日をかけて少しずつ構想をまとめてきたものです。自分で考えても二年なんてずいぶん長い時間をかけたものだと思いますし、物好きだなと思います。ビジネス向けの文章は、「消費」されることを前提に、効率的に数を書くほうが、今では普通だと思うからです。

「消費」というのは、消え去ること。言葉を変えれば、「忘れ去られる」ことです。ブログやメルマガはそんな忘却される情報のわかりやすい例だと思います。

どうですか。ブログもメルマガも、読み終えたその瞬間に忘れませんか？

フランスの映画監督ジャン・リュック・ゴダールが「テレビは忘却であり、映画は記憶である」と言いました。テレビは見終えた瞬間に忘れられる存在だが、まだ映画にはメディアとし

て記憶に残る力があるという意味でした。いまやテレビ以外の多くの情報も「忘却である」と言っても過言ではないと思います。

さらに悪いことに、情報は世界に溢れています。「この情報は良い情報だ」と思っても、大抵は次々生み出される新しい情報に目が行きますから、改めて再度同じ情報に触れる機会はないのではと思います。

書籍だってネット上の情報と、なら変わりません。新刊の発売数は、一日二〇〇冊とも、五〇〇冊とも言われます。無数の本がありますから、その中に埋没すれば、ネット上の情報と同じ道を辿るかもしれない。どうせ忘却されるなら、時間をかけてじっくり書くのは非効率かもしれません。

ただ、そんな中でもこの本は（長い時間をかけたことがいい効果をもたらすのかどうかはわからないけれど）現実には、何度も書いては書き直し、原稿ファイルの削除を繰り返して書きました。

こんなに時間をかけたのは部下の力を最大限発揮するマネジメントという、大事なだけでなく、本当に効果のある打ち手が見つからない課題に対して、新しい解決策を提示したかったからです。

僕は、企業経営のコンサルタントをしています。経営戦略やマーケティング、マネジメントについてアドバイスをする仕事です。一言で言うならば、売上をアップし、良い会社を作るサポートです。

と同時に「成長の専門家」という肩書きでも仕事をしています。それは、企業内に起こるどんな問題も、結局最後は人間が原因になっていることに気づき、長い間、人間について研究してきたからです。

重厚長大なトラディショナル企業から、新進気鋭の小さな会社まで、僕がアドバイスする企業は業界も規模もさまざまですが、どんな規模の会社も人が集まって働く点では共通です。小手先や表面的なテクニックを弄するのではなく、少しでも本質に迫るアドバイスをしようと思えば、「人」や「成長」、「心」についての知恵はなくてはならないものでした。

一〇年ほど人間について研究してきましたが、その理解を深めるにつれ、今回お話しするマネジメントの領域に深く疑問を持つようになりました。

マネジメントには、今すでに無数のソリューションがあります。

カタカナ語、アルファベットを羅列した理論の数々。僕もそのソリューションをクライアントに提供してきた経験があるのですが「何か足りない、何かずれている」とずっと感じていました。輸入されたマネジメント理論は、かっこよくて耳に聞こえはいいのですが、その話を学

んだのにもかわらず、チームはうまくまとまらない現実をたくさん見てきたからです。上司と部下で対立し、経営陣と社員でも対立する……なんて、会社の上下関係は対立していることが多く、そこから目を背けるように、耐えながら毎日の仕事をする方が大勢いる。時に、怒りさえ抑えながら。

マネジメントの問題で苦勞している人は、上司も部下も含めて、今の日本には大勢いるでしょう。それは、コンサルティングしてきた経験から感じることで、何より、僕自身も独立する前はサラリーマンのコンサルタントでしたから、自分の経験から考えても理解できます。マネジメントの難しさも、その問題の影響力の大きさも実体験としてよくわかっているつもりです。

問題は消えず、なぜ問題があるのか原因さえよくわからない。これという適切な打ち手が見つからない。

そんな状況を見て、マネジメントについて根本から考え直してみました。

クライアントの皆さんにアドバイスし実践してもらい、その考え方の真実性を確かめながら、少しずつ構築してきたのが、今回お話しする内容です。

組織として人が集まり働くときに、どうしたら少しでもみんながよい仕事をできるのか。どうしたらチーム全体が充実感を感じることができるのか。それを追求しました。

本書を読んでいただければご理解いただけると思いますが、マネジメントの問題は心の問題で、だからこそ繊細な内容です。繊細だからこそ、様々なバックグラウンドを持つ読者の皆さんが手にする「書籍」という形にするまでも長い月日がかかりました。僕の手元を離れてあなたのところへ届いたこの本の内容が、あなたにとって、部下がいきいき働くチームづくりの役に立ち、願わくは、あなたが部下に慕われる本物のリーダーになるきっかけになれば、これほど嬉しいことはありません。

マネージャーは本当にやりがいのある仕事です。

ぜひ、楽しくお読みください。そしてご活用ください！

吉井亮介

「場づくり」リーダーシップ 目次

はじめに

第1章 物語で学ぶ「部下に慕われるリーダー」になる方法

マネジメントの苦悩。はじめ、そして、出会い	12
最初の、大事なアドバイス——マネージャーの抱える問題とは？	22
レベルの高いマネージャー、レベルの低いマネージャー。その違いは	28
一体、誰が正しいのか？ 正しさがたくさんある話	35
大成功したい人が絶対にできなければいけないこと	38
マネジメントの問題を引き起こす本当の原因	40
解決しようとしているのに、一生解決できないこの問題	46
部下に慕われ、チームの力を引き出すリーダーたちに共通すること	49
マネージャーの失敗を引き起こす悲喜劇	55
大事なのは小手先のテクニックではない	58
コントロールしたい意識が、世界中で問題を起こしている	61
マネージャーとしての成功とは	65